

福祉環境委員会記録

令和5年12月1日（金）
13時00分～14時10分
第2委員会室

【委員】三浦委員長、肥後副委員長、
柳楽委員、串崎委員、上野委員、布施委員、川神委員

【執行部】

〔健康福祉部〕猪木迫健康福祉部長、河内地域福祉課長

〔市民生活部〕井上市民生活部長、小松環境課長

〔上下水道部〕佐々木上下水道部長、右田水道管理課長

【事務局】久保田書記

議 題

1 所管事務調査事項について

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 浜田市社会福祉協議会が廃止する介護サービスの導入から廃止に至る経緯と利用者への対応について(2) 新エネルギーに対する浜田市の考え方(3) 公営住宅における合併処理施設維持管理の現状について |
|---|

2 12月12日(火)の委員会審査日程等について

3 その他

- ・【要望書】令和6年度税制改正に関する提言について（委員会に配布）

4 ぎかいポストに寄せられた意見等への対応協議について（委員間で協議）

5 はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて（委員間で協議）

6 取組課題について（委員間で協議）

12月12日(火)10時開催の福祉環境委員会における予定議題

- 1 陳情審査
 - (1) 陳情第118号 電気ガス事業者や民法の規定と矛盾するような浜田市水道のルールはわかったものから改善してほしいという陳情について
- 2 議案第60号 下水道事業の地方公営企業法の全部適用に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
- 3 議案第65号 浜田市放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例について
- 4 執行部報告事項
- 5 所管事務調査
- 6 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 00 分 開議]

○三浦委員長

出席委員は7名で定足数に達しているので、福祉環境委員会を開会したい。早速レジュメに沿って進めていく。

1 所管事務調査事項について

○三浦委員長

12月12日開催予定の当委員会における所管事務調査事項について、あらかじめ決めておきたい。執行部に説明等を求める必要のあることがあれば願います。

○布施委員

先般から問題になっている浜田市社会福祉協議会との進展について。まだ結論は出ないにしても話し合いは色々されていると思う。それについて所管事務調査をお願いしたい。

○健康福祉部長

社会福祉協議会についてというのは、今回社会福祉協議会がやめると言われた野原デイサービスと訪問入浴についての2点か。

○布施委員

その進展と利用者の声など。浜田市が今後どのように携わっていくかも含めて。

○川神委員

訪問入浴は今までも長い歴史があって、社会的責任も果たしてこられた。厳しい状況とは聞くが、導入から今に至るまでの経緯が分かれば押さえておきたい。併せて資料提供してほしい。

○健康福祉部長

野原デイサービス事業、訪問入浴事業については、介護保険事業の中の事業となっているため、その辺で回答させていただく。

○三浦委員長

二つの事業について、これまでの経緯と先般報告があって今に至るまでの状況について、報告をお願いします。ほかにないか。

○柳楽委員

はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）のときに出てきた当委員会所管の関係で、まず1点目は日脚団地について出た。団地については福祉環境委員会が直接所管するものではないと思うが、下水道関係が含まれているのでそのあたりを確認させてもらったほうが良いとは思っている。下水道の利用料金、住民負担分の話が出ている。長年同じ状態で来ていて年数も経過しているので見直しをしてもらえないかという内容だった。

○上下水道部長

私どもが普段関与しておらず、完全に民間ベースの話なので、内部情報をどこまで公開の場でお話しできるかについては、大久保団地の組合とも協議した上で出せる情報と出せない情報を確認しないといけない。都市建設部が利用者の立場で参画している団地でもあるので、聞き取りができて、公開できる範囲でお答えさせていただくので良ければ、大久保団地の今の処理の関係をお答えする。

○柳楽委員

今の話だと、当委員会の所管内で話すのはなかなか難しい面があるということか。

○上下水道部長

今は実質的に県が管理していて、それを組合が維持管理している構造かと思うが、その発言者は浜田市に関してという発想もお持ちだったかと思う。それが課題解決につながるかどうかは、また別時限の話かと思っている。一般論の話はできると思うが、組合が抱えておられる内部事情などになると、やはり公表の可否は組合の意向に沿うことになる。

○三浦委員長

都市建設部に係る部分もあるので、上下水道部から話を聞いてもらい、可能な範囲で現況などを報告していただくという形で良いか。

○布施委員

市民一日議会のその方の発表は、自分たちが大久保団地の一人の住民ではあるが、組合内の話が統一されてない。自分個人の思いがあるから発言したとも言われた。

部長が言われたように、管轄は県。まだ組合との話もできてない状態でその方が訴えた。それをやってからの話も大事になってくる。ただ、先ほど委員長が言われたように、都市建設部を呼んで、組合とのヒアリングをどういう計画でやっていくかといったことは確認する必要がある。そういう形で進めたほうが良い。

○三浦委員長

先ほど上下水道部長も内部事情に触れられたが、この場で扱えること、扱えないことがあると思うし、可能な範囲で現状はどうなのかお知らせいただく。市民一日議会当日は私個人として発言したが、この団地住民の総意としての意見なのか、個人としての意見なのかを尋ねた。議会として、委員会としてどう扱うかは、一度状況報告をいただいてから、その後検討したいと思うが皆はいかがか、よろしいか。

○上下水道部長

組合は市の建築住宅課などから、当事者の方々に意向を聞き、情報をいただきながらという話になると思う。文書ではなく場合によっては口頭説明になるかと思う。それは許可をいただけるか。

○三浦委員長

大丈夫である。

○上下水道部長

よろしく願います。

○三浦委員長

ほかにあるか。

○柳楽委員

同じく市民一日議会で出た意見の関係だが、浜田港を利用した新エネルギー構想についてというテーマで話をいただいた中で、このことについては福祉環境委員会と産業建設委員会の両方で扱うことに決定しているのだが、当委員会としては新エネルギーについての市の考え方、今後どのようにそれを進めていく考えなのかといったところを少し確認させてもらえれば良いと思っている。

○市民生活部長

資料を用意させていただく。こういったことは以前議会からも質問があったと思う。そこでは、たちまちには難しいと回答したと思う。市の考え方を整理して資料を出したい。

○三浦委員長

ほかはないか。

(「なし」という声あり)

では、社会福祉協議会の2事業についてと、大久保団地の件、新エネルギーに関する市の考え方・見解について。以上の3点を所管事務調査として求めたいと思うが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

では、執行部の方々どうぞよろしく願います。

2 12月12日(火)の委員会審査日程等について

○三浦委員長

レジュメ下枠に表示されている委員会の審査日程についてである。まず陳情について、議題の順番は陳情者へ配慮し、これまで同様に委員会冒頭に陳情審査・採決を行い、議案審査とすることとしているので、ご承知おきをお願いします。

なお、各委員会での陳情審査においては、請願・陳情の審査基準に基づいて委員が判断することになる。判断基準は統一するが、採択・不採択等は各委員で陳情書の趣旨をしっかりと踏まえた上で判断し、反対の場合はその理由を明確にするようお願いしている。従来どおり反対理由は陳情者へ通知されるし、ホームページにも掲載されることになる。

また、委員会で採択とした陳情については、所管事務調査を含め対応を検討することになる。その日の委員会で対応を協議したいと思うのでよろしくお願いします。

1の陳情審査について、当委員会には1件付託されている。陳情第118号について、まず参考人の出席を求めるか。

(「不要」という声あり)

参考人の出席はなし。審査の参考のために委員会当日に執行部に確認しておきたいこと等はあるか。陳情の内容には、水道の手続きが電気・ガスと比較されているよ

うに表現されているが、このところのルールを改めて説明いただけるか。

○上下水道部長

詳細にというのは、なかなか過去に、窓口でも色々と市民の方から問合せ等をいただいた際に、ガス事業者、電気事業者などとも話を聞いているが、なかなか詳細にというのが難しいので、概略的に違いを説明させていただく。

○三浦委員長

審査の参考にさせてもらいたい。ほかに皆からあるか。

○柳楽委員

今の話の関係で、前に水道凍結の問題のときに、ここまでは市の管轄で、そこから先は持ち主の管轄で、というのがあったと思う。水道メーターから所有者の管轄だったろうか。

○上下水道部長

この陳情は、あくまでも所有権の話なので。先ほど委員が言われたのは、あくまでも日常の維持管理を市で負担するのか住民が負担するのかであり。要は浜田市が敷設した本管から分岐したところからは、いわゆる個人所有の給水装置なので、所有権ということなら、分岐点から全て個人所有になる。その部分の図面を所有者に提供できないかということ。

○柳楽委員

あのときの話とは少し違うということか。

○上下水道部長

全く違う。あれは漏水などした際の維持管理を、個人所有の物件ではあるがメーターよりも本管に近い部分については市が、この4月から見ているという話なので。別の案件とご理解いただきたい。

○柳楽委員

承知した。

○三浦委員長

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

では、先ほどお願いした概要のところ結構なので、説明をお願いします。次に付託議案の審査を行う。2件の市長提出議案について審査を行う流れになるが、その後執行部からの報告事項、所管事務調査を行う流れである。執行部からの報告事項は今のところ7件と伺っているが、7件で良いか。

(「はい」という声あり)

執行部報告事項については、執行部から補足説明のみいただき質疑を行うこととしている。委員は事前に資料の熟読をお願いします。所管事務調査については先ほどのとおり3件について、当日説明をお願いします。

3 その他

・【要望書】令和6年度税制改正に関する提言について（委員会に配布）

その他、執行部から何かあるか。

（ 「なし」という声あり ）

委員から執行部に対して何かあるか。

（ 「なし」という声あり ）

では、ここで執行部は退席されて構わない。

（ 執行部退席 ）

委員におかれては、1件要望書の提出がある。申合せにより、要望書はその写しを関係委員会に配付するのみとなっているので、内容を各自確認してほしい。

4 ぎかいポストに寄せられた意見等への対応協議について（委員間で協議）

○三浦委員長

配信された資料を見てほしい。このことについて、議会広報広聴委員会委員長から回答を作成するよう依頼があった。議会広報広聴委員会への回答提出期限は12月13日となっており、本日はこの意見にどのように回答するか、皆から意見をもらいながら協議したい。皆の意見はいかがか。

○布施委員

率直に感じられた意見が寄せられたと思っている。この委員会で協議するに当たり、最終的には統一できると思うが、そこに至るまでに時間が掛かると思う。できたら正副委員長で素案を作っていただき、我々に示してもらえば進みやすいのではと個人的に思っているのだがどうか。

○三浦委員長

そういう形で進めたいとは思うが、いただいた意見の内容について皆がどういった意見を持たれているか方向性だけは確認した上で原稿を作成したい。いただいた意見に対して皆がどのように受け止められたか、所見をいただきたい。どうだろうか。

○川神委員

率直に現在の厳しい状況の中で、自分たちの納税に関して恐らく多くの方が厳しいと感じていると理解している。言われることは確かにごもっともかもしれないが、我々は市議会としてこの問題にどう対処するか。税制、税率、制度の問題に関して、感覚的に理解するところ。ただこの議会の中で、ぜひ減税に向けて動こうといったような動きは、地方議会にはかなりハードルが高い。したがってこれに対しては、厳しい現状は認識しつつ、何らかの形で皆が納得できる、まちづくりの中での問題について全力を挙げる。例えばこの税率を上げてくれ、下げてくれ、という声に対してダイレクトに返答するのは、議会としてそぐわない部分もある。一定の理解をしながらも、皆が生活しやすい、過ごしやすいまちづくりに対して我々ができることをいくらか述べる、そういう視点も要るのかと。直にいただいた意見に賛同するのは、少し現実から外れている。ただ、せっかくの意見なので、それに対してきちんと寄り添うこ

とが大事だと思う。

○串崎委員

国に関係することなので、書いてあることは理解するが、抽象的な答弁しかできないように感じている。

○三浦委員長

固定資産税の話など、今までの議会でも浜田市は少し高いのではないかという意見を述べられる議員がおられたが。

○柳楽委員

他市と比べて額はどうか。所得に対しての割合の話なので、他市はどの程度の割合にしているのか。市民税と書いてあるので。固定資産税は他市と比べても高いという話はあるが、市民税自体もそうなのか。確認できれば確認してみたい。

○川神委員

あとは古い設定というのは、どれを指しているのか。何が古いのか。例えば今世の中で新しい考え方、新しい制度に移行としようとしているものがあるなら、相変わらず昔を引きずっていて、変えれば良いのにあえてそれを使っているといった案件があるなら、変更すべきはすべき。この古い設定というのはどれを指しているか、改めて担当課に確認して意見を聞く必要もあろうと思う。

○布施委員

現状に直接関わるなら、もうかっている一流企業の内部留保に税金を掛けたほうがよほど良いと個人的に思っている。自民党にも言えることだが。

この方の言い分はよく分かる。ただ、金持ちはたくさん払うべきだと書いてある。それなりに税金が掛かっているのに、それがまだ払うべきかどうかは、ここで決められることでもない。難しい。したがって限定せず、抽象的な回答しかできないと思う。ただ、ぎかいポストに寄せられたような抽象的な返し方で良いのではと思っている。

○肥後副委員長

大企業の名前は出せないが、ネットやプレス報道では時折ある。誰もが知っている大手が実は税金ゼロ円といった話が。そういうのもあって、この方の思いもよりあるのかと思う。実際は分からないが。

50%まではいかないが、所得の税金負担割合、微妙だが46、47%。それくらい色々な税金が掛かっているというのを讀んだ。ぎかいポストに寄せるしかこの人も言っていく先がなく、議会で意見として取り上げてもらえるのかと期待を込めた意見なのかと思った。ただ、それに対して我々に何ができるかというとな難しい。

○三浦委員長

では、こうした思いを寄せられた気持ちは酌み取りながら、ここに出ているような税率の話を市議会で議論するのはなかなか難しいところもあるが、先ほど川神委員が言われたように、こうしたところは十分踏まえて納得していただけるようなまちづくりに努力していく、といった形で一旦は戻したい。市民税については情報として皆と共有できるよう、こちらから担当課に調査してみたい。

では、以上のように回答を作成して皆にお諮りしたい。よろしく願います。12月12日の委員会で案をお示しするので、その際に確認・決定したい。

5 はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて（委員間で協議）

○三浦委員長

このことについては、11月20日の全員協議会で今後の対応についての方向性が決まり、福祉環境委員会で取り扱うことになったのは2件になる。配信資料の赤枠で囲まれた1番、10番である。各委員会で対応し、12月下旬をめどに再度参加者に通知する流れになっている。このため12月19日の全員協議会で、参加者に再度通知する内容を全議員で確認する予定となっているので、今日は福祉環境委員会としてどのように対応していくか、方向性などを協議したい。一応所管事務調査で情報提供をいただくこととなっているので、12日に状況が出てくる。それを踏まえてどうするかを、そのときにまた協議することになる。それを受けてどのように対応していくか、まとめていく流れにしようか。

（ 「はい」という声あり ）

ではそのような形で進めたい。12月12日の委員会後に決めるということで良いか。

（ 「はい」という声あり ）

6 取組課題について（委員間で協議）

○三浦委員長

皆の協力に感謝する。いただいた意見は書記が一覧表にまとめてくれたので、そちらを見てほしい。

まず一人ずつ、どういった背景や問題意識を持ちながらこのテーマを選ばれたか、簡単に説明を求めたい。

○串崎委員

私は健康寿命についてである。一覧を見ると柳楽委員も布施委員も書いておられる。人生100年時代を迎え、いかに健康寿命を延ばしていくかだと思っている。浜田市は特に高齢化率が高い。出向く体制等が大変大事になってくるのだろうと思っている。それには老人クラブなどの活性化で、なるべく老人クラブに出るような形だろうと思っている。それに併せて軽スポーツ。私はゲートボールをしているが、なかなか深みがあり、コミュニティもあり、大変頭を使う。ゲートボールをする方は認知症にならないと確実にうたわれている。そうした軽スポーツ等をやっていかなければいけないという気持ちで書かせてもらった。

○上野委員

私のテーマは「少子化対策～産み育てやすい浜田～」と挙げてみた。少子化により、色々なところへの影響がもっと出てくるような気がする。もちろん子どもが増えれば学校も建つ、バスや鉄道利用者もだんだん増えてくる。子どもが大きくなれば警察や消防署の職員も充足する。調べてみたところ第1次ベビーブームでは1年間に270万人

くらい生まれているが、今は80万人を切る。特に中山間地は若い人が少なく、年寄りだけになる。そうすれば年寄りを守れないので年寄りを連れて広島へ出ていく。せっかく浜田で集めた介護保険料も、県外へ流出する例がだんだん増えている。

私も婚活関係で5、6名携わった。せっかく若者がいても全く結婚する気がない。なぜかと思う。50年前に比べて結婚する方が半分近く減っている。この周りでは子育てが大変だ、せっかく育てても奨学金で大学を卒業後すぐに何百万もの借金があるなど、下手に子どもを育てるよりも単身のほうが良いという言い方をする人もいた。

兵庫県明石市、岡山県奈義町は、子どもにすごくお金を掛けている。移住者のための住宅ローン利子の助成など、力を入れて子どもが減るところか増えていると聞いた。以前行った熊野も、あの山奥で色々な工夫をして子どもが増えて、保育所の建て増しを検討していた。もっと色々な工夫をしないと、今後ますます厳しい地域になる気がして、少子化をテーマに取り上げた。

○布施委員

私は「健康寿命の延伸」と書いた。浜田市は「はまチャレ」という企画をして歩くことを推奨しているが、歩く姿勢、歩きやすい道、障がい者と以前お話しした際、外の空気を吸いながら、環境的に良ければ健康になれる状態もある。ただ、数年前に委員会発議で、障がい者にやさしいまちづくりをしようという条例を作った。ただあれを見ても、そのときには非常にチェックしていくが、それ以降、私も犬と歩くと、歩く環境が整備されてない状態。草刈りは別にして、そういった状態が結構見受けられる。白線のないところ、曖昧な示し方など。そういったことを含めて、もう1回、健康を維持するためにはハード面も見直す必要があるのではないかという視点から提案している。県の平均健康寿命、あれだけ挑戦しても浜田市は低いほうなので、重点的にやるべきではないかと思って上げた。

もう一つ、社会福祉協議会しかないサービスを、利用者がいるにも関わらず経営的な問題でやめていくのはいかがなものかと。ただ、答弁によってはやめるのではなく引き継ぐ所があればやっているとされたが、今まで模索してもできなかったことも事実である。他市町村のそういったサービスに携わる人が言うには、そこをやるのが社会福祉協議会ではないかという意見もある。7名の利用者には随時説明していくとのことだが、ある方に聞くと、これがなくなったら自分は風呂にも入れないと。風呂はリフレッシュになるし1日の区切りもできる。週1回のサービスがなくなれば大変だから、何とかしてくれという意見もあった。7名だけど今まで断っている。需要はまだたくさんあるのではとも言われた。取組課題としてどうかと思ったが、福祉に限らず今後こういうものは起きてくるのではと思い、取組課題に上げさせてもらった。

○川神委員

私は中山間地域の医療対策を書いた。前委員会に私もいたが、その中で一つには健康寿命の延伸も大きなテーマとして進めていこうと、障がい者の就労支援に注目していた。当然その後のフォローをしなければいけない。提言書も出した。委員会の継続性の観点で、それをどうするかは責務としてやっていかなければいけない。その認識

があったので書いてない。

私も一般質問で、ワクチン接種や受診などもやってきた。これも健康寿命の延伸につながる事なのでそういうこともやるが、特に最近、中山間地域の問題を色々やっていく中で、通院も、公共交通機関が厳しい、財政的にも厳しい、ましてや救急車の搬送問題。距離的に大変な状況にいる中で、命の重さに差が出ているのではと思う。旧市内も課題はあるが、特に周辺、中山間地域に住まう方々、高齢化する中で、ここに対する医療対策をきちんと打っていかないと、オール浜田の命を守る戦略に差があるのはいけない。通院への様々な補助、救急車の配置、道路整備など戦略はあるが、そろそろICTを全面的に駆使してやる。医療だけでない。医療は20年くらい前から双方向などやっているが、なかなかそこに至ってない。なおかつドクターがいなくて、それをそれでカバーしようという全国の流れがあるが、ドクターがいなくて、ICTも使わない、そのようなことで本当にこの地域の医療を守っていくのは、もっと戦略があるのではということ、中山間地域医療の拡充を選んだ。

○柳楽委員

「健康寿命の延伸について」を出させてもらった。前委員会にて障がい者支援と、健康寿命をテーマにして、前回は障がい者支援を取り組んだので、今回また健康寿命の延伸を出させてもらった。浜田市は県内でも健康寿命が短いと言われている。浜田市においてはがん検診を無料でやっており、他市に比べてどこよりも充実した体制が取られているのだが、受診率はあまり高くない。どうやったら受診してもらえるかということにも取り組んでみたい。

あとは、前もどこかで話したことがあるのだが、まずは自分自身の日常生活、食生活自体が健康に影響を与えるので、食事の取り方など、まずは自分の状態を把握するのが大事だと思っている。食事だけでなく骨密度の計測など、市も健康教室などでやっているが、そういうことも含めて自分自身の状態が今どうなのかを把握することで、自分が何に注意するかという意識も生まれてくると思う。そういう方向へつながる取組も考えていきたい。

一つ気になっているのは先ほど川神委員が言われた、医療の関係。医療格差はすごくあると思っている。ドクターカーの話も記載の中にあっただが、オンライン診療も気になってはいる。

○肥後副委員長

社会福祉協議会の訪問入浴介護サービス廃止の報告が前回あったが、福祉のまちにならなければいけないくらい高齢化率が高いのに、こういったサービスが廃止され、これが引き金となってサービスがむしろ後退してしまうようではいけないので、今後の、本当に最適化された介護事業とはということ、委員会の取組課題に設定して、それについて情報収集、皆で協議して、何をどう求めるかやってみたい。

訪問介護入浴事業については、隣の益田市では民間事業者がやっていると聞いた。なぜ浜田市では社会福祉協議会で続けられないのか。社会福祉協議会の意見も聞いてみたいし、また利用者の意見も聞いてみたい。こういったところから始めて介護事業

全体の流れをつかみたい。

もう一つは再生可能エネルギー。私はしつこいくらい言っている。私が言いたいのは、エネルギーをきっかけにして、光熱費が高いと言うが、今のように暖房を入れても熱が逃げていくような建物に住まれている方が浜田市は非常に多い。最近の新築住宅がそうでないことは、若い世帯のところに入出入りする方はよくご存じだろう。

屋内で暖房を入れる、壁体内結露といって壁の中の古い断熱材に湿気がまわり、気づかぬうちに黒カビだらけになり、それがアトピーやアレルギーの原因になっているのではと聞く。そういったことを含めて再生可能エネルギーの可能性と、もっと言えば環境教育というのが実は大事である。いくら福祉環境委員会が取り組んでも、実際には学校や、大人を変えるにはなかなか、自発的に変わらない限りいくら言っても難しいが、若い学生たちに、事業者を招いて、もしくはカーボンニュートラル推進室が学校や市民向け講座を開いているので、その内容をよりブラッシュアップして取り組んでいければ。浜田市は再生可能エネルギーのポテンシャルがあると思っている。

政策内容としては例えば、廃棄物からのエネルギー活用を探る。先般研修で鳥取環境大学へ初めて行った。私の斜め後ろに座っていた教授が、水産物の廃棄物、要は魚のアラなど、嫌な臭いがするがあれはほぼアンモニアだと。アンモニアは水素と非常に近く、例えば愛知県碧南の火力発電所では、100万キロワットの出力、ちょうど三隅火電と同規模、国の方針としてアンモニアを混焼、もしくは将来的には100%にする流れができています。そういったことも皆に知ってもらいたいし、議会としても取り組んで市民向け講座などをする。そうすることで、より住んで良かったと思えるのではと私は思う。

○三浦委員長

私は二つ提案した。一つは断熱対策の推進である。なぜ上げたかという、カーボンニュートラル宣言を浜田市は行っているが、環境課だけが取り組んでも全く、実際にどれくらいニュートラルになっているか実数は生み出せない。有機農業推進もカーボンニュートラルの文脈もあって国の補助が出ている。農業と環境を掛け合わせたような政策は浜田でも行われるようになった。では環境と健康、環境と福祉はどのように掛け合わせられるのか、取組として考えてみたいと思ったことが提案の背景にある。

高断熱・高气密な家は健康的で快適に暮らせる。加えて光熱費やCO₂を抑えるので世の中の関心が高まっていて、国も補助金を出して健康住宅として推し進めている。

鳥取県は国よりももっと高い基準を独自に設けて補助金を作り、そういった住宅を地域的に増やす政策を取っている。ただ、これを進めても市内の設計事業者と、こういうものが本当に浜田の中で増えていけば良いという意識を共有しないと、なかなか前に進んでいかない。関係事業者と意見交換しながら、浜田市に独自基準を設けられないか研究してはどうか、というのが一つである。

もう一つは、放課後児童クラブの評価について。放課後児童クラブは浜田でも民営化の傾向があるが、放課後児童クラブの現状は一体どうなっているか気になっている。運営は基本的に国が、放課後児童クラブの運営ガイドラインを定めているので、それ

にのっとなってされているが、聞いてみるとほぼ自己評価や、ましてや第三者評価をしているところは浜田市内にはないらしい。つまり浜田市は、放課後児童クラブをやってもらっているところに、このガイドラインに従ってやってくれとお願いしていて、どうやってサービス向上していくかの指導や協議などの関与が非常に薄いと思っている。子どもたちの大半が通っている児童クラブの質向上に、市はもっと関わるべきではないかという思いからテーマに上げている。評価制度を導入することが政策のゴールになるかと思う。西東京市などはそういった評価を設けて放課後児童クラブの評価を実施されている。そういう事例があるので参考にしながら、見ても良いのではというのが二つ目の提案である。

複数の委員からも出ていたが、前委員会の中で障がい者雇用の件と重層的支援体制整備事業への着手の件については提言されていて、直近のものでもあるし追っていく必要があるだろうと思っている。それと、認知症条例の制定後も本当に認知症の色々なサポートができてきているのかは、特に見ていく必要があるとの意識を持っているし、健康寿命の延伸に関する提言のその後も、今回複数の委員が健康寿命の延伸をテーマに出されているが、しっかり見ていく必要があると思っている。

盛りだくさんなのでどれもとはいかないが、あまり広げたテーマを掲げてしまうとざっくりしたメッセージになってしまい、提言としては内容が少し弱まる懸念もあるので、テーマを絞って議論を進めていけたらと思う。皆が出されたテーマは、どれも取り組まなければいけない課題だと思う。今日決めるのは難しいと思うので、今日は報告にとどめさせてもらい、次回またほかの委員の考えも聞いた上で、改めて意見をいただきたい。

○布施委員

確認しておくが、この委員会は改選までの2年である。この取組課題は2年を通しての課題なのか。色々な意見から集約して二つくらいのテーマにして、前期・後期とするのか。提言につなげるのか、取組課題として委員会代表質問などで執行部に問うのか。色々なやり方があると思う。産業建設委員会では委員会質問をやって建議書という形で出した。やり方によって仕事量が変わってくる。それを含めて次回検討したら良いのでは。

○三浦委員長

私の意見になるが、あまり長く調査研究することは考えてない。社会状況が常に変わっている中で、あまり一つのテーマを長く伸ばしながらやるよりは、ある程度の端を決めてワーキンググループ的な感覚で、テーマを掲げてそれに対し我々の見解をまとめていけたら良いと考えている。ただ、もちろん物によっては深掘りする中で結論が出しにくいことは出てくると思うが。

委員会代表質問も、しかるべきタイミングで委員会の総意としてただそうということになれば、どのタイミングでも聞いていく。提言という形でしっかりまとめて執行部に提案できればきちんとした効果を持つと思う。委員会の総意もだが議会の総意もしていくなど。委員7名から議員21名が思ったという形で提言できればすばらしいこ

となので、皆で協議しながら適切な進め方をしていきたい。

○川神委員

今までも委員会によって色々なやり方があった。提言書を出す場合、最終的には議員提案条例を提案するものなど。議長とも話したのだが、その課題に取り組んで最終的に提言や条例まで無理やり行くのが着地点だという考え方はやめてもらいたい。議論の過程を通じて得るものが一番大事なのであって、提言を出せば良い、条例を作れば良い、うちはここまでやっているのだと、そのような時代もあったがそうではなく。委員長が言われたように、ある程度のスパン内で中間くらいのときに1回、全ての議員に中間報告をして、途中で意見を聞く。周知する。委員外議員も他人事にしないために議会で共有する。折り返し時点で全議員に投げ掛けて自由討議するなりして、全議員の意見を吸い上げて進めていくのが良いだろうと話している。この委員会でもそうしたほうが良いと思っている。

○三浦委員長

予算編成のプロセスもあると思う。場合によっては来年度予算に組み込んでほしいといったものがあれば、もちろん予算編成に間に合うようにメッセージを出さないと先送りになってしまう。そういったことも念頭に置きながら進めたい。

今日の委員会を迎える前に副委員長とも話をさせてもらって、委員会の進め方の方針として、一つはこれまで福祉環境委員会で作されている提言をきちんと振り返り、その後の対応を所管事務調査等できちんと確認していくこと。二つ目は新たな取組課題を設定して意見交換会や視察はこういったテーマを基に行っていきたいということ。三つ目は広聴機能強化。議長団からもそれは引き続き言われていて、各所管委員会で関係団体と意見交換をしっかりと行っていくのが重要だろうと思う。前産業建設委員会では色々な団体と意見交換されていた。川神委員からは中山間地域の医療について話が出たが、場合によっては江津と浜田と、医療圏として、県はそういう圏域で見ているので、例えば必要に応じて江津市議会と、この圏域の医療をどう考えていくかといった議論もやったほうが良いと私は思っている。社会福祉協議会のこともある、再生可能エネルギーの実施事業者とエネルギー問題について意見交換会をしても良い。それが必ずしも取組課題と一致しなくても、通常の広聴活動としてやっていったほうが良いし、皆からも、各地域からご要望等があればできるだけ積極的にそういう場を持っていこうと副委員長と確認した。そういう形で委員会を進めていきたいと思っているので、皆のご協力をいただきたい。

○川神委員

1点補足したい。今、江津の話が出た。石見4市内で観光、医療の問題など、オール石見でタッグを組んでやるのが進むのではないかという問題がいくらかある。江津は医療圏に関して色々なことがこれまであった。江津済生会病院ではなく医療センター中心の計画になっているのではないかとか、済生会病院が置き去りにになっているのではないかとか。どうしても江津・浜田の医療圏は保健所の管轄などあるので、すみ分けしようと言いながらも江津済生会病院の力はどんどんそがれている。

介護医療院というのがある。例えば浜田なら島田先生。福祉と医療が合致したものが介護医療院となり、ほとんどの病院がやめてしまった。だから八千代病院などへ出ていく。介護医療院が充実すると、例えばこの圏域にとどまれて、介護保険料をある程度引き戻すことができる。介護医療院をどうするのか、第9期介護保険の大きな課題となっている。その中で、江津済生会病院の一部を介護医療院にする方針が出ている。そういったことで、今からより浜田と江津が合併する話が出てくるかもしれない。医療圏に関してはもう少し双方の歩み寄りの中で良い形を模索するのは、住民のためにとっても重要だと委員長が言われるのも当然だと思う。場合によってはそのようなテーマを決めて、江津と浜田の関係委員会の意見交換会は非常に有効だと思う。

○三浦委員長

様々な形でそういった意見交換の場を色々なところと持っていきたいと、副委員長とも話したし今後の委員会運営をしていきたいと思っている。ご理解をいただければ幸いである。

取組課題のテーマについては、今日それぞれの意見を踏まえてまた次回、自薦他薦も含めて皆の意見を頂戴したい。よろしく願います。

○柳楽委員

委員長が赤字で書いている提言について、健康寿命の延伸に関するところがあるが、認知症予防の強化と早期発見についてである。

○三浦委員長

提言の名称は「健康寿命の延伸」ではなかったか。あれの中に認知症が入っていたのでは。

○柳楽委員

いえ、「認知症予防の評価と早期発見」が提言の内容だった。既にやっているような話になると少しまずいと思ったので、訂正をよろしく願います。

○三浦委員長

では、ここは修正する。ほかにないか。

○布施委員

視察はどのように考えているか。

○三浦委員長

視察は取組課題が決まってから、それに応じて行きたい。恐らくどのテーマにするにしても先進的な取組を情報として入れてから議論していかないといけないと思うので、テーマが決まり次第、テーマの提案者の方々とどこを視察すべきか協議して選んでいく。できるだけ早いタイミングで視察は行って議論していく。そういう流れで進めたい。

○布施委員

前委員会のことを言うのではないが、視察先の日程が決まっても感染症の拡大や雪の影響など、色々な懸念がある。受入れ先から断られるケースも結構ある。日程が分かり次第、早目に調整してほしい。

○三浦委員長

承知した。そのようにしたい。ほかに皆からあるか。

(「なし」という声あり)

では、以上で福祉環境委員会を終了する。

[14 時 10 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員会委員長 三 浦 大 紀